

子ども農山漁村交流プロジェクトについて

農林水産省

農村振興局 都市農村交流課

子ども農山漁村交流プロジェクトの概要と位置付け

プロジェクトの概要

- 「子ども農山漁村交流プロジェクト」は、農林水産省、文部科学省、総務省が連携し、学ぶ意欲や自立心、思いやりの心、規範意識などを育み、力強い子どもの成長を支える教育活動として、小学校における農山漁村での宿泊体験活動を推進するもの。
- 全国2万2千校の小学校(1学年規模120万人)で宿泊体験活動を展開することを目指し、小学校における宿泊体験活動の取組の推進、農山漁村における宿泊体験の受入体制の整備(目標500地域)、地方独自の取組への積極的な支援を行う。

位置付け

小学校学習指導要領 (H20.3.28文部科学省告示)

第1章 総則

第1 教育課程編成の一般方針

2 道徳教育を進めるに当たっては、教師と児童及び児童相互の人間関係を深めるとともに、児童が自己の生き方についての考えを深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。

第6章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容〔学校行事〕

2 内容 全校又は学年を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。

(4) 遠足・集団宿泊的行事

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。

食料・農業・農村・基本計画 (H22.3.30閣議決定)

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

3. 農村の振興に関する施策

(2) 都市と農村の交流等

③教育、医療・介護の場としての農山漁村の活用

(前略)また、子どもを農山漁村に宿泊・滞在させるとともに、

農林水産業等の体験を行わせ、当該地域の人々との交流を深めるなどの動きも重要である。こうした取組については、農山漁村への経済効果のほか、子どもの生きる力を育むなど、教育的な効果を得られていることを踏まえ、関係府省で連携し、受入体制の整備等を促進する。

教育振興基本計画 (H20.7.1閣議決定)

第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組むべき施策

(3) 基本的方向ごとの施策

○基本的方向1 社会全体で教育の向上に取り組む

① 学校・家庭・地域の連携・協力を強化し、社会全体の教育力を向上させる

関係府省が連携して、小学校で自然体験・集団宿泊体験を全国の児童が一定期間(例えば1週間程度)実施できるよう目指すとともに、そのために必要な体験活動プログラムの開発や指導者の育成を支援する。

子ども農山漁村交流プロジェクトの概要

※ 主な関連事業を記載。
金額は各省の平成24年度予算概算決定額

農林水産省

○全国の小学生(1学年単位)で受入が可能な地域づくりを全国的に拡大

- ・モデル地域を核とした受入地域の整備に向けた総合的な支援
- ・受入地域と小学校の情報の共有化、連携活動等の強化
- ・地域リーダーの育成及び体験プログラムの開発 等

【食と地域の交流促進対策交付金 1,364百万円の内数】

【農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 4,075百万円の内数】

環境省

協力支援

支援(モデル地区の整備支援、情報提供等)

農山漁村

宿泊体験

全ての小学校で活動することを目標

小学校

支援(情報提供等)

支援(情報提供等)

支援(活動支援・情報提供等)

受入地域の整備の推進に向けた連携

宿泊体験活動の送り側、受入側の連絡調整(モデル連携)

総務省

○地域の活力を創造する観点等から、宿泊体験活動の推進に向けた取組に対して支援

- ・受入地域のコミュニティ、市町村、都道府県等に対する支援(情報提供等)、気運醸成等
- ・地方独自の取り組みへの積極的な支援

【都市・農山漁村の教育交流による地域活性化推進等事業 1百万円】

【特別交付税措置】

文部科学省

○豊かな人間性や社会性の育成に向け、小学校等における宿泊体験活動の取組を推進

- ・宿泊体験活動を実施する小学校等に対する支援(活動支援・情報提供等)
- ・体験活動を推進するための課題等を検討

【豊かな体験活動推進事業のうち自然宿泊体験事業 学校・家庭・地域の連携協力推進事業全体 8,516百万円の内数】

連携

小学校における農山漁村での自然体験、農林漁業体験等の取組状況

- 農山漁村での体験活動は、約2割(23%)の学校で実施(平成20年度)。実施校の約6割は、小学校5年生で実施。
- 教育効果が高いとの分析結果がある3泊4日以上での実施は、全体の約2割(19.1%)。
- 農家民泊又は農家民宿での宿泊は、全体の約1割(12.1%)。

※平成20年度子ども農山漁村交流プロジェクト実施人数等調査より

○体験活動等 実施校数・割合

公立小学校数 (平成20年度)	いずれかの学年で実施した 学校数	割合
21,578校	4,984校	23.1%

○学年別参加児童数・割合

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
参加児童数	1,576人	1,666人	2,436人	31,414人	189,786人	91,261人	318,139人
割合	0.5%	0.5%	0.8%	9.9%	59.7%	28.7%	100.0%

○宿泊期間別 学年数・割合

	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上	合計
実施学年数	2,614	2,014	409	152	526	5,715
割合	45.7%	35.2%	7.2%	2.7%	9.2%	100.0%

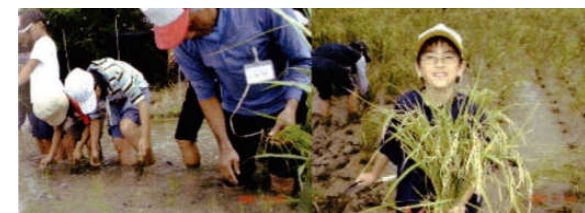
○宿泊先別 学年数・割合

	青少年宿泊施設	ホテル等	民宿	民泊	廃校を改修した施設	その他(公民館等)	合計
実施学年数	3,312	1,154	481	285	101	1,013	6,346
割合	52.2%	18.2%	7.6%	4.5%	1.6%	15.9%	100.0%

※「民宿」とは旅館業法の簡易宿所、「民泊」とは旅館業法によらずに民家に宿泊体験することをいう。

○農山漁村での自然体験等の取組事例

・沖縄県那覇市立銘苺小学校
5年生と6年生の異学年合同による2泊3日の日程で宿泊体験を実施。農家の喜びや苦労を時間をかけて体験させる活動として、1日は農家での農業体験・宿泊体験を実施し、直接体験による学習の深化と地域の方々との心の交流を図っている。



※体験活動事例集～体験のススメ～(平成20年1月)より

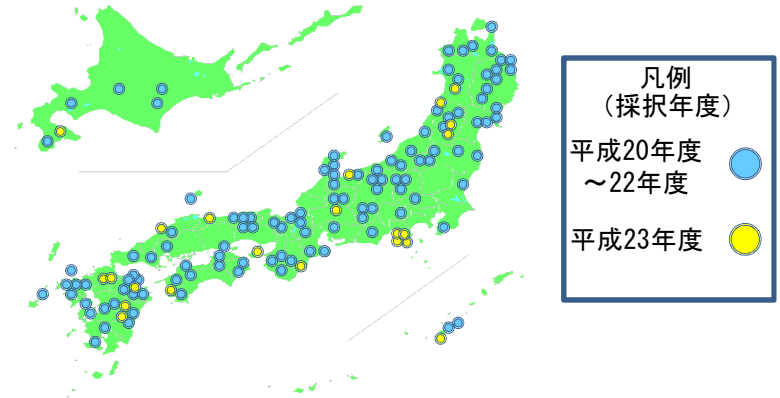
受入地域の取組状況

○受入地域の取組は着実に拡大。(受入モデル地域:H20年度 53地域 → H23年度 137地域)

受入モデル地域と受入実績の推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
新規受入モデル地域	53	37	25	22
累計受入モデル地域	53	90	115	137
受入小学校数	323	411	422	
受入児童数	約2万人	約2万3千人	約2万7千人	

<受入モデル地域位置図>



※農林水産省都市農村交流課調べ (平成23年7月時点)

○受入モデル地域を含め、全国228の地域で小学校の宿泊体験活動を受け入れ。
○受入れを希望する地域や受入れを検討している地域は、全国で約600地域。

受入地域の状況

受入地域の種別	地域数
受入地域	228
うち受入モデル地域	115
受入を希望している地域	42
受入の可能性のある地域	337
うち受入を検討している地域	93
合計	607

※農林水産省都市農村交流課調べ(平成22年4月時点)



<プログラムの一例>

日程	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
午前	移動	自然観察ハイキング	田植え体験	食体験	農村生活体験(民泊)	お別れ会
午後	地域・まちづくり探検	工芸体験	昔の道具体験	田舎の暮らし体験	農村生活体験(民泊)	移動

子ども農山漁村交流プロジェクト 受入モデル地域一覧（参考）

農政局等	都道府県	所在市町村	受入地域協議会名	採択年度				農政局等	都道府県	所在市町村	受入地域協議会名	採択年度				農政局等	都道府県	所在市町村	受入地域協議会名	採択年度				
				H20	H21	H22	H23					H20	H21	H22	H23					H20	H21	H22	H23	
北海道 (6地域)	北海道 (6地域)	長沼町	長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会	○				長野県 (6地域)	飯山市	北信州みゆき子ども交流推進協議会	○				中国四国 農政局 (18地域)	鳥取県 (2地域)	鳥取市	五しの里さじ子ども体験協議会	○					
		大樹町	南十勝長期宿泊体験交流協議会	○						倉吉市	倉吉市体験型教育旅行誘致協議会							○						
		豊浦町	豊浦・滄湖子ども農山漁村協議会		○						大町市	北アルプス山麓地域協議会	○						島根県 (3地域)	西ノ島町	隠岐島前子育て島協議会	○		
		池田町	ちばく体験観光協会			○				伊那市		伊那市観光協会長谷支部	○								邑南町	邑智郡田舎体験交流協議会	○	
		松前町	松前町ツーリズム推進協議会				○				長野市	長野市子ども夢学校受入れ協議会							浜田市	浜田市ツーリズム協議会				
		七飯町	大沼グリーン・ツーリズム推進協議会				○			駒ヶ根市		駒ヶ根市ふるさと子ども交流推進協議会	○							岡山県	瀬戸内市	瀬戸内市教育旅行誘致推進会	○	
青森県 (5地域)	青森県 (5地域)	南部町	達者村ホームステイ連絡協議会	○				静岡県 (5地域)	森町	森町ツーリズム研究会	○					広島県	北広島町	北広島町子ども農山漁村交流プロジェクト協議会	○					
		弘前市	弘前市グリーン・ツーリズム推進協議会	○						静岡市	しずおかの恵み体感協議会							○	山口県 (2地域)	長門市	俄山グリーンツーリズム推進協議会	○		
		髭ヶ沢町	髭ヶ沢白神グリーンツーリズム推進協議会	○							下田市	伊豆下田地区教育旅行協議会						○			岩国市	やましろ体験交流協議会		
		黒石市	黒石児童自然体験協議会「まほろば学校」				○			松崎町		松崎町グリーンツーリズム推進協議会						○	徳島県 (3地域)	牟岐町		南阿波よくばり体験推進協議会	○	
		東通村	下北ふるさと活性協議会				○				西伊豆町	西伊豆いきいき漁村活性化協議会						○			三好市	そらの郷山里物語協議会		
		遠野村	遠野ふるさと体験協議会	○						越後町		越後町舎体験推進協議会	○						勝浦町	ふれあい体験協議会				
葛巻町	くずまき高原宿泊体験協議会	○				佐渡市	佐渡地区農山漁村体験推進協議会	○					香川県	高松市		さぬき宿泊体験協議会					○			
田野畑村	体験村・たのぼた教育旅行受入協議会				○		妙高市	妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会	○							愛媛県 (4地域)	内子町	内子わくわく体験協議会	○					
久慈市	ふるさと体験学習協会				○	阿賀町		奥阿賀地域グリーン・ツーリズム推進協議会	○				西条市	西条市グリーン・ツーリズム推進協議会				○						
花巻市	はなまきグリーン・ツーリズム推進協議会				○		魚沼市	うおぬま体験交流推進協議会				○		今治市		しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会								
奥州市	奥州こども夢学校推進協議会				○	胎内市		胎内型ツーリズム推進協議会301人会					愛南町			愛南グリーン・ツーリズム推進協議会				○				
雫石町	雫石町グリーン・ツーリズム推進協議会				○		南砺市	南砺市利賀地域長期宿泊体験協議会	○					高知県		四万十市	播多広域観光協議会							
洋野町	海と高原のまち・ひろの体験交流推進協議会				○	黒部市		くろべ都市農村交流実行委員会	○				福岡県 (2地域)		うきは市		姫治子ども交流推進協議会				○			
東北 農政局 (32地域)	宮城県 (4地域)	加美町	加美町グリーン・ツーリズム推進協議会	○					富山県 (6地域)	氷見市	氷見市宿泊体験推進協議会						○	朝日町	あさひふるさと体験推進協議会	○				
		南三陸町	南三陸町グリーン&ブルー・ツーリズム推進協議会	○				石川市			石川市子ども農山漁村交流プロジェクト受入協議会	○				佐賀県 (2地域)	伊万里市		伊万里グリーン・ツーリズム推進協議会	○				
		東松島市	東松島体験ネットワーク				○			七尾市	七尾市子ども農山漁村交流プロジェクト受入協議会	○						唐津市	唐津・玄海体験型旅行受入推進協議会					
		気仙沼市	気仙沼市アグリ&ツーリズム連絡協議会				○	志賀町			志賀町グリーン・ツーリズム研究会				○	長崎県 (5地域)	松浦市		松浦体験型旅行協議会	○				
		仙北市	仙北市農山村体験推進協議会				○			若狭町	若狭美浜はあとふる体験推進協議会	○						小値賀町	小値賀町長期宿泊体験協議会				○	
		大湯村	新生の大地大湯村体験推進協議会				○	若狭町			若狭三方五湖わんぱく隊					香岐市	香岐体験型観光受入協議会		○					
横手市	横手市グリーン・ツーリズム連絡協議会				○	郡上市	郡上・田舎の学校						西海市	西海市ふるさと子ども夢学校受入協議会					○					
山形県 (7地域)	山形県 (7地域)	西川町	月山山麓かもし学園推進協議会	○					岐阜県 (3地域)	高山市	ふるさと体験飛騨高山						熊本市 (3地域)	天草市	御所浦アイランドツーリズム推進協議会	○				
		飯豊町	めざみの里グリーン・ツーリズム推進協議会				○	関市			坂取子ども農山村交流プロジェクト推進協議会				○	阿蘇市			阿蘇子ども農山村交流プロジェクト受入センター	○				
		最上町	最上町体験旅行実践協議会				○			愛知県	豊田市	とよた都市農山村交流ネットワーク						○	八代市	八代市グリーン・ツーリズム推進協議会				○
		鶴岡市	鶴岡市グリーン・ツーリズム推進協議会				○	鳥羽市			鳥の旅社推進協議会	○				宇佐市		宇佐市ツーリズム推進協議会		○				
		白鷹町	白鷹ツーリズム推進協議会				○			三重県 (3地域)	大台町	大台町子どもプロジェクト推進協議会	○						佐伯市	佐伯市観光協会佐伯ツーリズム推進協議会	○			
		遊佐町	鳥海山"おもしろ自然塾"推進協議会				○	紀北町				きほくふるさと体験塾						九重町		G-WEST(大分県西部地区教育旅行受入協議会)	○			
上山市	蔵王教育ファーム研究会				○	滋賀県 (2地域)	日野町		三方よし！近江日野田舎体験推進協議会	○				大分県 (7地域)	豊後高田市	豊後高田市グリーンツーリズム推進協議会					○			
福島県 (5地域)	福島県 (5地域)	南会津町	南会津農村生活体験推進協議会	○						高島市	社団法人びわ湖高島観光							国東市	国東市子ども農村民泊体験協議会				○	
		喜多市	喜多市体験活動推進協議会	○					綾部市		綾部かんぱやしりの里体験推進協議会	○					竹田市		竹田市観光ツーリズム協会				○	
		福島市	ふくしま農業体験交流推進協議会					○		南丹市	南丹市美山エコツーリズム推進協議会	○						臼杵市	臼杵市子ども滞在受入協議会				○	
		只見町	只見町子ども農家体験協会					○	浪江町		浪江町教育旅行プロジェクト運営委員会						西都市		西都市グリーン・ツーリズム研究会	○				
		浪江町	浪江町教育旅行プロジェクト運営委員会					○		養父市	氷ノ山鉢伏わん泊体験受入協議会	○						諸塚村	諸塚村観光協会				○	
		常陸太田市	グリーンふるさと振興機構				○	豊岡市	豊岡市長期宿泊体験推進協議会		○				五ヶ瀬町	五ヶ瀬山学校推進協議会					○			
関東 農政局 (18地域)	茨城県 (3地域)	片品村	片品村受入地域協議会	○					兵庫県 (5地域)	香美町	香美町自然学校受入協議会事務局						小林市	北きりしま田舎物語推進協議会				○		
		上野村	上野村長期宿泊体験協議会	○				新温泉町			新温泉町いなか体験協議会					鹿児島県 (2地域)		南九州市	南九州市グリーン・ツーリズム協議会	○				
		みなかみ町	みなかみ町教育旅行協議会				○			淡路市	淡路市体験教育旅行推進協議会				○				伊佐市	伊佐地域ふるさと夢学校協議会				○
		秩父市	秩父市子ども農山村交流協議会				○	津川村			神納川農山村交流体験協議会	○						国頭村		やんばる交流推進連絡協議会				○
		南房総市	南房総体験活動ネットワーク協議会				○			白浜町	大好き日置川の会								金武町	金武町ふれあい交流協議会				○
		埼玉県	秩父市	秩父市子ども農山村交流協議会				○			日高川町	ゆめ倶楽部21								八重瀬町	沖繩南部広域農山漁村協議会			
千葉県	南房総市	南房総体験活動ネットワーク協議会				○	高野町	高野ほんまもん体験協議会													○			
東京都	秩父市	秩父市子ども農山村交流協議会				○																		
神奈川県	秩父市	秩父市子ども農山村交流協議会				○																		
山梨県	道志村	道志村子ども農山漁村地域協議会				○																		

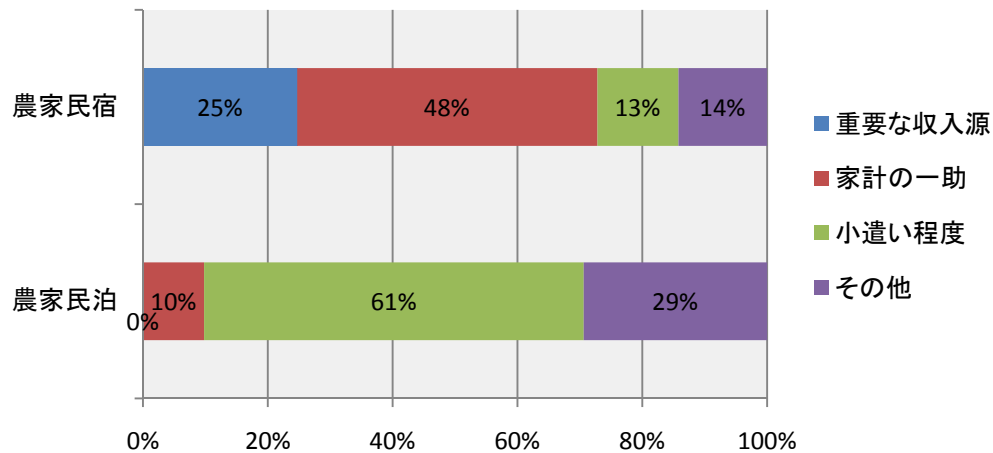
	H20	H21	H22	H23
地域数	53	37	25	22
地域数(累計)	53	90	115	137

子ども農山漁村交流プロジェクトによる効果（受入地域）

＜経済効果＞

- 農家民宿、農家民泊ともに7割以上の者が**経済効果がある**と回答。（受入金額は1地域の平均で約590万円）
- 農家民泊では顕著な経済効果があるとの回答はないが、農家民宿では25%が重要な収入源と回答。

経済的効果の実感

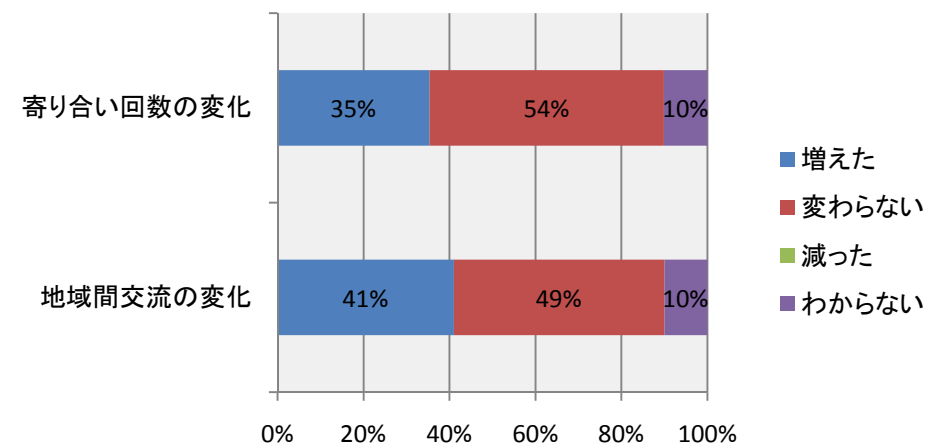


※平成20年度に農林水産省農林水産政策研究所が、受入モデル地域に選定した53地域を対象に実施した、子ども農山漁村交流プロジェクトの効果に関するアンケート調査の結果による。（アンケート回収率84%、有効回答率75%）

＜地域コミュニティの活性化効果＞

- 「地域間交流が増えた」、「地域内での寄り合いの回数が増えた」と回答するなどコミュニティの活性化を評価。
- また、「受入を契機に地域行事への参加が増加した」、「関係農家が講師となった講習会が増えた」とする回答のほか、「高齢者の生きがい対策として大きな効果がある」など評価する回答。

コミュニティの活性化効果

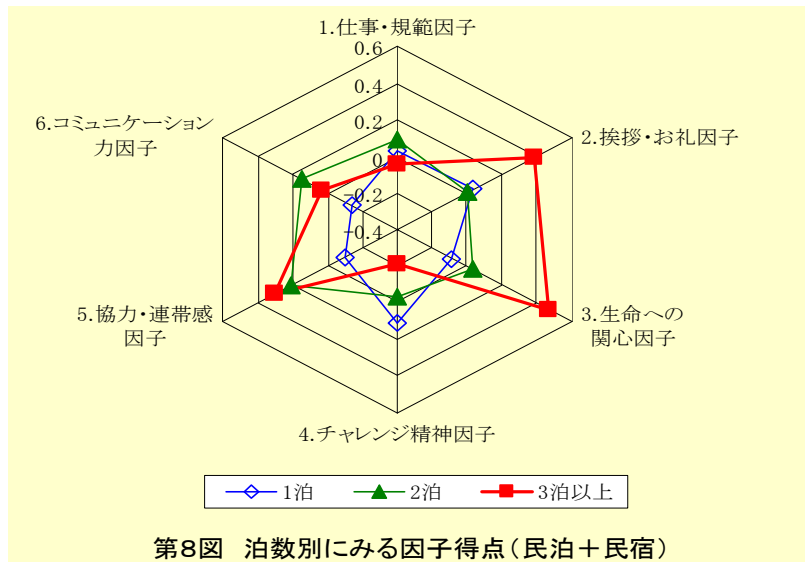


※出典は同左

子ども農山漁村交流プロジェクトによる効果（小学校）

＜宿泊数による教育効果の違い＞

○宿泊数が多くなるほど教育効果が高く、特に3泊以上することで、「挨拶ができるようになる」、「命の大切さへの関心が高まる」、「環境保全意識の向上」といった効果が飛躍的に向上。

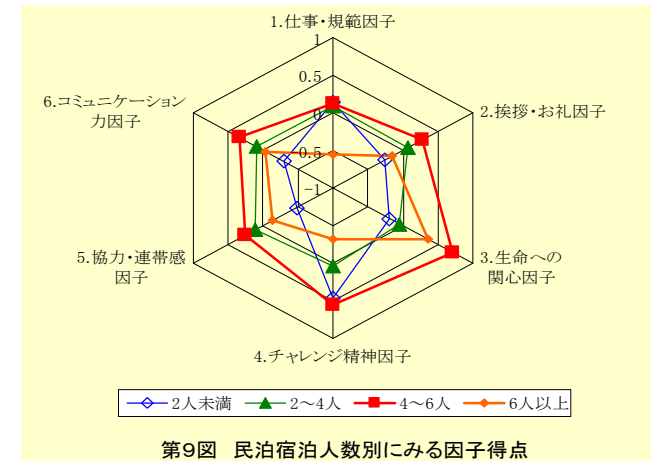


第8図 泊数別にみる因子得点（民泊+民宿）

- ※1 平成20年度に文部科学省が指定したモデル校に対し、体験前後における児童生徒の変化に関するアンケート調査を行った結果をさらに農林水産省農林水産政策研究所が因子分析したもの。
- ※2 「文科省アンケートDB」と「農林水産省子どもプロジェクト実績DB」の双方に該当する102校を対象とし、因子分析の結果抽出された因子得点を評価指標として活用（因子得点は各サンプルが当該因子から受ける影響度を数値化したもので、ゼロが平均）
- ※3 「文科省アンケートDB」とは、平成21年度に文部科学省の「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」に指定された178校を対象に実施した、体験前後における児童生徒の変化に関するアンケート調査の結果を因子分析したもの。（アンケート回収率100%）

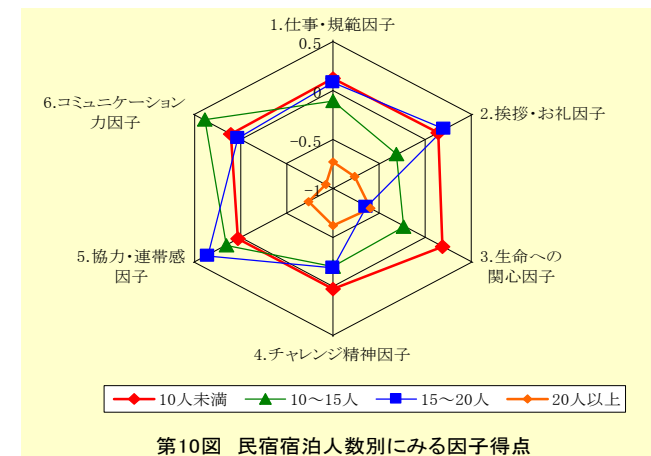
＜宿泊人数による教育効果の違い＞

○民泊の場合、「命の大切さへの関心が高まる」、「任意活動に積極的に参加するようになる」といった効果を中心に、宿泊人数4～6人で教育効果が高い。



第9図 民泊宿泊人数別にみる因子得点

○民宿（簡易宿泊所、旅館業）において、宿泊人数が20人以上の大人数になると、教育的効果は著しく低下。

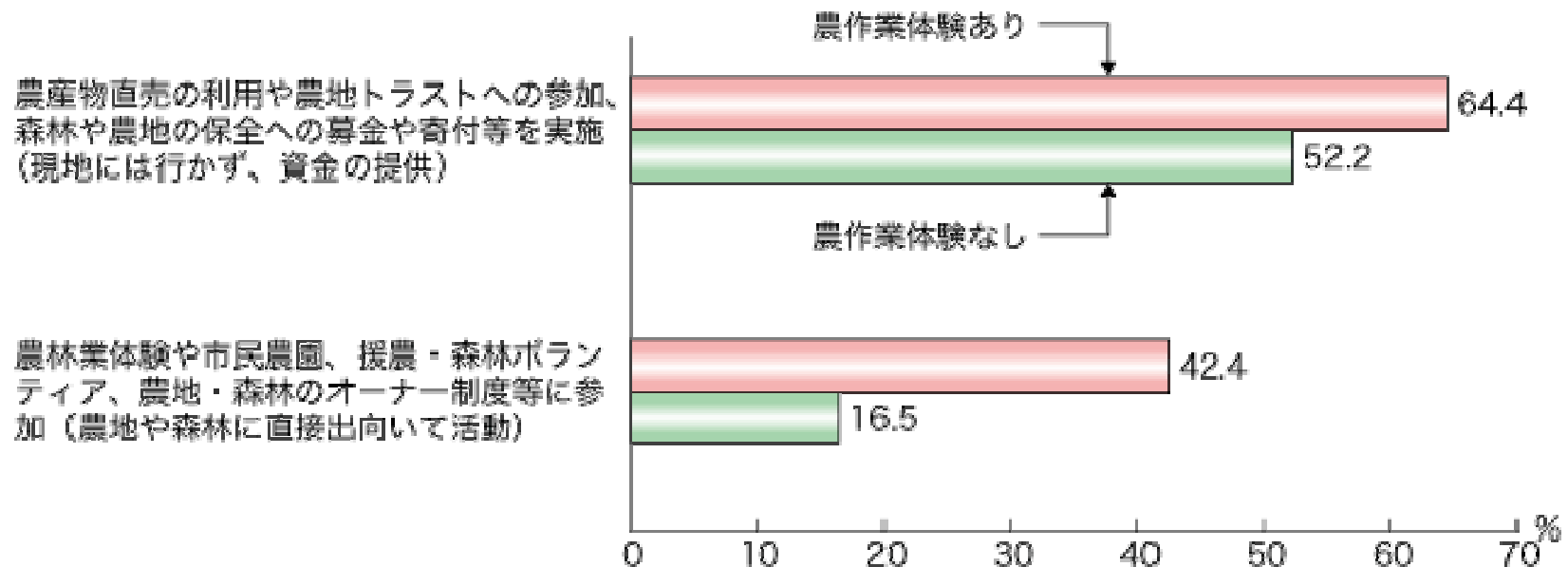


第10図 民宿宿泊人数別にみる因子得点

子どもの農業体験

- 子どもの農業体験は、成人後の農林業へのかかわりに大きく影響。
- 農村振興のみならず、担い手確保の観点からも、子どもの農業体験を拡大していくことが重要。

子ども期の農作業体験別農林業へのかかわり



資料：国土交通省「国土の国民的経営の推進に係る基礎調査」（2007年3月公表）

注：1）インターネット調査会社に登録しているモニターを対象として実施したインターネット調査（回答総数3千）

2）調査対象は、20歳以上で農林漁業に従事（兼業を含む）していない都市住民（全国の30万人以上の都市及び東京23区居住者が基本（人口30万人以上の都市が存在しない県については県庁所在地、同一県内に30万人以上の都市が複数ある場合は一部対象外））